

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五ノ六・公衆電話三三二二七二〇七

# 二期工事 反対同盟の闘いに応えよう!



## 5・1 反対同盟との 生きとじた交流会開かる

五月一日、三里塚芝山連合空港反対同盟の総意による勤労千葉支援・連帯の激励交流会が行われた。反対同盟の心暖まる招請によつて開かれたこの会には、関川委員長をはじめ被処分者である西森・水野・山口・吉岡本部執行委員、堀口・日暮・片岡・永田の四支部長が出席した。反対同盟からは、石橋副委員長、北原事務局長、島事務局長、秋葉救対部長、鈴木本部役員、熱田副行動隊長、敷地内石毛さん、市東さん、長谷川婦人行動隊長、郡司婦人行動隊副隊長が出席され、なごやかな中にも闘う者同志の心の通いあつた力強い交流ががちとられた。

激励交流会は、時ならぬ勤労千葉・反対同盟役員が結集したことに、すわ何事かと気も動転した権力が慌てて集結するなか、それをはねとばし意気揚々として島事務局長の司会で進められた。石橋副委員長の主催者を代表してのあいさつを受け、それに応えて関川委員長のお礼と闘う決意表明が行われ、その後石橋副委員長より反対同盟全戸から集められた勤労千葉支援基金カシバ四十二万円が関川委員長へ手渡された。



→互いの健闘をたたえ、更なる決意を固めた。力強い決意が述べられた。

三里塚の夜が深まるにつれ盃を酌み交し和気あいあいと交流会はつづき、互いの健闘をたたえあいつつ労農連帯をさらにうちかため五・二四三里塚現地集会へ、二期工事阻止へと奮闘することを誓い合った。

## 拡大・前進する『支援基金運動』

— 横浜 W 生氏よりの檄文 —

支援基金が呼びかけられていくことを知り早速十万円送りませう。兄等の闘いに対し、当局が「禍根を絶たねば」と発言しているのを読み、私のように陰ながら闘いを声援している者にも、これは相当腰を据えた支援を組まなければという思いがしていました。

私は兄等と同じ運輸労働者として未組織のトラック運転手にすぎません。土地を売って小金をつかんだような「資本家」が、数台十数台とトラックを持って、それが製造業、大手配

送問屋などの元請負の下請の又、孫請などとしてトラックを入れていきます。労働条件、将来保障など推して知るべしです。我々が注目を浴びるのは、兄等が春闘など闘う時に財界や、民間大手労組の幹部などが、我々のような存在を引き合いに出して、兄等の足を引っばろうとする時、位でしょうか。しかし、こんな片腹痛いたく、腹立たしいことはありません。「民間は石油危機を血を流して乗り切った」などと言うが、血を流したのにはバート・下請労働者などであり、大企業など焼け太りです。

我々の仲間も、そういう支配層のふりまくデマゴギーに乗っけてしまいがちです。しかし、それは、そういう差別支配構造を、仕方がないものと思ひ込まれている時だけです。ひと度、それを打ち破ろうと立ち上がる時には、「やっばりあんな風に(千葉勤労のように)あばれなくっちゃな!」という声がかかるのです。兄等の一層の健闘を祈ります。(横浜 W 生)